

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立銅座幼稚園

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

地域に開かれた幼稚園として、保護者・地域・幼稚園が連携し、子どもの健全育成に向け、就学前教育に取り組んでいる。

現状として、本園の子どもたちは家庭で大切に育てられ、落ち着いて活動できる子どもが多い。気性が穏やかで優しい幼児が多いが、自分の思いと違ったり、友達と思いがぶつかったりした時に、諦めてしまう姿も見られる。また、身近な環境や事象に進んで関わろうとする幼児がいる一方で、初めての活動に躊躇したり、受け身であったり、遊びが継続しにくかったりする幼児もいる。

そこで、園内や地域の豊かな環境を活用し、本園の特色を生かした教育活動を実践することにより子どもたちの興味・関心・意欲を高めるとともに、「学びの芽生え」を培っていきたいと考える。

地域とのふれあいや幼保小連携活動を積極的に行い、いろいろな人との関わりの中で思いやりの心を育み、小学校教育への円滑な接続を図るようにする。また、集団生活におけるきまりや防災・安全教育については、幼児期からその大切さと必要性に気付いて行動できるように、発達や実態に応じた指導を行い、家庭への啓発を行う。

以上のような内容について保護者・地域の理解を得ながら取り組み、共に子どもたちの成長を支えていくようにしたいと考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】**学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】**学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする

3 本年度の自己評価結果の総括

保育の充実を図ることができるように、各年間計画を見直しながら、園運営を行った。子どもの実態を丁寧に把握し、教職員が相談、協力しながら、地域や小学校、関係諸機関等と連携して、園運営を進めたことで、全ての取組内容において「B：目標どおりに達成した」以上の評価となった。

また、年度末に行った保護者アンケート調査では、7項目全ての肯定的な意見が97%以上となり、本園の教育に理解と信頼を得られているものと考えられる。

それぞれの取組の反省から、改めて年間計画の見直しを図り、今後、より一層の保育の充実につなげていきたい。

大阪市立 銅座幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「警備および防災の計画」「安全対策マニュアル」「大規模災害時初期対応マニュアル」に基づき、災害時等に備えた訓練や指導等を実施する ----- 指標 年間指導計画に基づき、実施する マニュアルの見直しを行い、共通理解を図る	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 幼稚園でのきまりの大切さを知らせ、進んで取り組もうとする気持ちを育む ----- 指標 年間指導計画に基づき、毎学期、発達段階に応じた指導を実施する	B
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 一人一人の子どもが思いやりの気持ちをもち、互いのよさを認め合えるような指導を行う ----- 指標 月1回以上、幼児理解についての連絡会を行う 個別の指導計画、個別の教育支援計画を立て、学期ごとに見直し、教職員間で共有しながら指導を実施する	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 子どもの実態、発達に合わせたねらいを設定し、年間計画を立てて、訓練や指導を実施した。火災、地震、津波、不審者侵入、Jアラート発令や、保護者と連携した引き渡し訓練など様々な想定の実施を行った。子どもの発達段階に合わせて進めることで、落ち着いて訓練に参加することができ、子どもなりに訓練の大切さも感じている。7月に、警察署及び区役所と連携し、教職員の防犯訓練を実施し、事前の打ち合わせや事後の反省会を丁寧に行った。また、「警備および防災の計画」や「安全対策マニュアル」等の見直しや共通理解を全教職員で行い、連携強化や防犯意識を高めることができた。 本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目について、肯定的な回答を99%得ることができ、目標を上回って達成することができた。	

- ② 1学期は挨拶、2学期は、安全な遊具・用具の使い方、3学期は片付けについてについて年間計画を立て、指導を行った。5歳児は挨拶当番やお茶遊びを通して、自分から挨拶をする意識をもち、場面に応じた挨拶があることを知り、心を込めて挨拶することを学んだ。また、3、4歳児は、教師や友達と挨拶を交し合う嬉しさや心地よさを味わった。

安全な遊具・用具の使い方について、各クラスで考える機会をもった。安全な使い方を子どもたちなりに考え、ルールを考えたり、ルールを守って遊ぼうとしたりする姿につながった。また、片付けについては、学年の実態に合わせて指導することで、楽しみながら片付けたり、自分の持ち物や皆の物を大切にしようとしたりする気持ちをもつようになっている。

本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

- ③ 月1回以上、幼児理解についての検討会や連絡会を行い、教職員間で幼児理解を深めることができた。1、2学期に4回、3学期に2回、特別支援教育についての専門家による指導を受け、継続して幼児の成長や課題について考え合い、教職員の特別支援教育についての資質向上の機会にすることができた。また、療育先や相談支援員等とケース会議を行い、共通理解を行いながら指導を進めた。結果、幼児の実態を共有し、支援の方法の共通理解、連携を図ることができた。

本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

次年度への改善点

- ① 今後も、子どもの実態に合わせて年間計画やマニュアルの見直しを随時行い、外部機関と連携しながら、様々な状況を想定しての訓練や指導を行う。また、教職員間で、各計画やマニュアルを丁寧に共通理解し、より連携を図れるようにする。
- ② 来年度も引き続き、取り組んだ内容を継続できるように働きかける。また、子どもの実態に合わせて、取組内容を検討していく。
- ③ 来年度も、年間計画通り進め、保護者や療育先等との連携を引き続き行っていく。支援を要する子どもを含め、一人一人のよさを認め、思いやりの気持ちを育んでいく。

大阪市立 銅座幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 子どもの心が安定し、主体的に活動できるように環境や援助を工夫する ----- 指標 年3回以上園内研究会を実施する 就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し、環境や援助の工夫について月に2回以上検討し合う。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 子どもの発達段階、興味、季節等に応じて、子どもが自ら心と体を動かし多様な動きを楽しむための環境や援助の在り方について学び合う ----- 指標 就学前教育カリキュラムや幼児期運動指針を参考にし、年間計画に基づき、指導を実施する	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 基礎的生活習慣を身につける保健指導や栽培活動・食育指導を通して、自身の健康や食への関心を高める ----- 指標 子どもの実態に応じた保健指導を実施する。 年間計画に基づき、担任と連携し、食育指導を実施する	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 泥遊びや水遊び、運動遊び、劇遊びなどについて園内研究会を年4回実施し、教職員同士で学びを深めることができた。泥遊びや水遊びでは、子どもの興味・関心に合わせて園内の環境を生かしながら教材研究を行ったことで、子どもたちが主体的に遊ぶ姿につながった。また、運動遊びでは、子どもたちが伸び伸びと楽しんで体を動かす環境構成や言葉かけ、援助の工夫などを検討した。劇遊びでは、子どもが表現する楽しさを味わえる言葉かけや教師の援助について学びを深めた。 また、教職員同士で普段からそれぞれのクラスの環境や遊びを共有し、互いに学びを深め合いながら、クラス間で子どもが関わりをもって遊べるようにしている。	

本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫していますか」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

- ② 1学期は、教師や友達と一緒にサーキット遊びや固定遊具、ボール遊び、縄跳びなどいろいろな運動遊びをする中で、体を動かす楽しさを味わった。運動会では、5歳児は自分の得意なことをたくさんの人に見てもらい、充実感や達成感を味わい、自信につながった。3、4歳児は、ジャングルごっこや電車ごっこなど、イメージを膨らませながら、体を動かす楽しさを味わった。3学期は、鬼ごっこやドッジボールなどで友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わいながら思い切り体を動かしたり、異年齢の姿に影響を受け、一輪車や縄跳びなど新しいことに挑戦して遊んだりする姿も見られた。

本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

- ③ 子どもの実態に応じて、基本的生活習慣を中心に保健指導を行った。幼稚園生活の中でその都度声をかけ、教師と一緒に実践することで、基本的生活習慣が身に付きつつある。食育指導では、栽培活動を中心に行った。毎日水やりを行い、野菜の生長を保護者と見守ることで、収穫を共に喜ぶ姿が見られた。また、野菜を育てることの大変さを感じるとともに、自分で育てた野菜を食べる喜びを味わい、食への関心が高まった。米の栽培では、「田植え」「稲刈り」「脱穀」「もみすり」を経験することで、米をつくることの大変さや、食べ物を残さず食べることの大切さを知ることができた。

本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物について自分の健康に興味や関心をもつようになり了吗か」の項目について、肯定的な回答は97%となり、目標を上回って達成することができた。

次年度への改善点

- ① 来年度も引き続き、園内研究会を実施し、子どもが主体的に活動できるように、環境構成や援助について考えを出し合いながら保育を進めたい。
- ② 引き続き、教職員同士連携しながら、子どもの実態や興味関心、季節に応じて、子どもが楽しく体を動かせるような環境を工夫していく。
- ③ 引き続き、基本的生活習慣を身につける保健指導を行うとともに栽培活動や食育指導を進めていく。また、収穫だよりや写真掲示、ホームページ等により、園での様子を保護者に啓発していく。

大阪市立 銅座幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を87%以上にする	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 子どもが地域への親しみをもてるように、南大江小学校や地域の人との交流・連携活動を進める。その中で、互いの教育内容の理解を深め、小学校への円滑な接続を図ったり、地域に根ざした教育活動を実施したりする。	A
指標 年間計画に基づき、事前事後の打ち合わせも含め、連携活動を実施する	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 5歳児が、6月、12月に小学校を訪問し、授業の様子や生活科の授業の一環として小学生と交流した。4歳児は、11月に小学校を訪問し、作品展を見学した。小学校への親しみや憧れ、就学への期待をもつことにつながった。また、幼稚園生活や遊びの様子を、写真や文面で小学校の先生に知らせ、感想をいただいた。幼稚園での教育内容や、幼児の発達について発信することができた。 保育所や聴覚支援学校とも交流し、進んでいろいろな人と関わろうとする姿が見られた。いろいろな人と関わる楽しさやいろいろな人が自分の周りにいることを感じる機会となった。聴覚支援学校とは、職員が互いの作品展を見合い、幼児教育についての学びを深めることができた。 また、地域の文化祭「たんぼぼの会」に全園児で参加することにより、地域の一員として生活していることの喜び、大切に育てていただいていることを感じ、感謝の気持ちをもつ機会となった。 本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。	
次年度への改善点	
① 来年度も引き続き、地域の小学校をはじめ、諸学校との連携を図り、子どもたちの実態に合わせて交流の機会をつくとともに、幼稚園教育の啓発をしていく。また、進学に際して、丁寧な引継ぎを行う。	